

所 報

第 4 5 号 2001年11月発行
 発 行 人 高 嶺 朝 勇
 発 行 所 沖縄県立教育センター
 〒904 2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地
 電 話 0 9 8 - 9 3 3 - 7 5 5 5
 F A X 0 9 8 - 9 3 3 - 3 2 3 3

『アカウンタビリティ』について

教育経営研修課課長 又吉孝一



行政は、納税者である住民の負託を受け、実施したことについて、計画、実施、評価を含めた全体の情報を説明する責任 - アカウンタビリティ - を負っている。アカウンタビリティは、「説明責任」と訳されている。本稿は、特に、学校のアカウンタビリティについてまとめたものである。

1. 学校のアカウンタビリティ

「学校がアカウンタビリティを果たしている」とは、教育者の行為が正しく道理にかなったものであると、保護者や住民に対して説明することが可能であり、実際に、その説明が十分に行われている状況を示す。

2. 誰に対する責任か

生徒・保護者や地域住民に対して。

3. 何を説明する責任か

- (1) 子どもたちの実態分析、学校の教育方針・教育目標、各教科毎の目標。
- (2) 方針や目標を達成するための教育活動計画、教科の指導計画
- (3) 評価の観点（基準）と方法。
- (4) 教育活動の成果と今後の課題。

4. 説明する機会と方法

- (1) 保護者会での説明、PTA総会・評議員会での説明、学校だよりへの記載を通して。
- (2) 学校評議員を通して。
- (3) 住民（納税者）や利用者（生徒たち）への説

明責任を果たすには、広報誌やインターネットを活用するなど多面的な情報開示の努力をする必要がある。

- (4) 学校評議員の会議資料・会議録を開示する。

5. 学校のアカウンタビリティを問う装置としての学校評議員制度

- (1) 「校長の求めに応じ、学校運営に関し意見を述べることができる。」（学校教育法施行規則）
- (2) 「学校の教育目標とそれに基づく具体的教育計画、またその実施状況についての自己評価を、それぞれ、保護者や地域住民に説明する」仕組みの一環である。（中教審答申）

6. アカウンタビリティを果たすために

- (1) 教員は、自己の使命を自覚し、その職責の遂行に努めなければならない。
 - ・幅広い教養と国際性、研修を。
 - ・学力についての正しい認識、専門的知識及び実践的指導力。
- (2) 生徒に学力をつけることなしには教員の専門職性は語れない。また、社会問題になっている生徒の学校不適応などについても、教員は、指導力を発揮して取り組むことが必要である。
- (3) もし単位の不認定や原級留置の生徒を出せば、指導方法・指導過程を説明することが求められる。

目 次

－論評－	「アカウンタビリティについて」	1
－短期研修2001－	「新設の自主研修講座が大好評」	2
－3ヶ月研修－	「3ヶ月研修ですばらしい成果」	3
－IT教育センタ(仮称)－	「未来型教育をめざして」	4
<研究室だより>		
「ALT紹介」	「研修を終えて」	5
「研修スタート」		
－シリーズ－	「教育センター環境整備のあゆみ(その2)」	6～7

トピックス

- －化学研究室「好奇心を喚起する観察・実験」－ マルチメディア研究室「中間検討会」 8

新設の自主研修型講座が大好評

— 自ら課題をもち、追究していく教員を目指して —

教員のニーズに応じた

課題解決型・参加型の講座がスタート

学校教育の場において、直接子ども達の教育にたずさわる教師には、教育者としての使命感は勿論、人間の成長・発達についての深い理解や幼児児童生徒に対する教育的愛情、教科に対する専門的知識、そしてこれらを基盤とする実践的指導力など、幅広い資質が求められています。したがって、教師には常に学ぶ姿勢、つまり、自ら課題をもち、これを追究していくという姿勢がなくてはなりません。

こうした視点から、短期研修講座の開設に当たっても、これまでの「短期研修応用講座」に加えて、今年度から新たに自主研修型の講座として「短期研修自主講座」を開設することにしました。この自主講座への応募状況は、講座数 24 に対して応募者数 305 人で、初年度としては良好な反応であり、現場の教師がそれだけ積極的な課題意識をもっているということがうかがわれます。

なお、これまでの研修形態である「短期研修応用講座」に対しても、67 の講座に 1677 人の応募がありました。来年度も一層の充実を図るべく努力をしたいと思います。多くの先生方の短期研修講座への応募をお待ちしています。

短期研修自主講座の中から

- 学習障害児への支援講座 -

今年から、小学校及び中学校の教師を対象に立ち上げた自主研修型の講座です。この講座は、学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)等、通常学級に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のためのものです。

6 月から 12 月まで、毎月第三水曜日の午後 5 時 30 分から行っています。その中で、個々の課題に応じた指導のプログラムを作成し、学習障害児の支援に生かす取り組みを進めています。

あと 2 回予定しています。LD や ADHD 等への指導について知りたい方は、ご参加ください。

(受講者の感想)

今、目の前にいる様々な課題を抱えた子ども達について、専門家を交えて話し合う中から、指導法についてのアイディアや別の視点からの児童理解の仕方を見いだすことができました。

短期研修応用講座の中から

- 小学校図画工作実技講座 -

図画工作の実技研修を通して指導力の向上を図り、教材の工夫により創造活動を高めることを目的に午前は「ペンダントホイッスルを創ろう」、午後は「あかりの空間」の講座を実施しました。“活動あって教育なし”という美術教育に対する指摘があることから新学習指導要領についてのミニ講座を付け加えました。受講された先生方は時を忘れ楽しく取り組んでおられました(写真)

(受講者の感想)

- ・実習、演習が現場ですぐ役立つので助かります。とても良かったので来年も参加します。
- ・次は郷土の教材開発的な実習をやりたいです。



(次年度に向けての主事の声から)

- ・今後も受講者からの要望の強い、即授業に使える工作教材等を中心に実施したいと思います。小学校については「鑑賞」領域が新設され、美術館等の利用も推進する必要がありバスを貸し切った美術館巡り等も視野に入れて計画をしたいと思います。
- ・今年度初めて学校の飼育牛を活用して講座を展開し、好評を得ました。次年度も同様な計画を行いたいと思います。

「3ヶ月研修ですばらしい成果！」

『学校の情報化を積極的に推進する校内リーダーの育成を図る』ことを目的に、情報教育長期研修が、平成13年4月から6月まで実施されました。特殊教育諸学校からは、8名が研修に参加しました。短い研修期間ですばらしい成果を上げたみなさんの、研修を終えての感想や学校での状況等、そのいくつかを紹介します。

初任者向けの研修だと聞いて参加した「西崎養護学校の喜舎場広子教諭」から

入所式で3ヶ月研修が校内LAN管理者養成のためだと知った衝撃的な事実、そのショックから立ち直るゆとりもないまま望んだ課内講座、DPTソフトの基礎・データベースソフトAccessの基礎・応用・プログラミング演習・LANの基本的しくみからネットワーク構築・NTサーバーの構築などかなりハイレベルな内容だった。購入した本の冊数も2桁にのぼった。そんな中、課題研究として自作ソフトの作成があり、Web教材を作成することにした。

知的障害があり、発音の不明瞭な生徒の構音指導をパソコンを活用し、楽しい授業にしたいと考え、画像やアニメーション、音声やBGMを多く取り入れたわかりやすいソフトづくりになるよう取り組んだ。(中略)

ここで学んだ技術を活かし、文字の筆順をアニメーションで表示し、発音と合わせて指導できるようなソフトも作成したいと思います。

知的障害児の食事指導を中心として『かみかみソフト』を作成した、名護養護学校の「東町子教諭」から

3ヶ月間の研修は予想以上に厚みがあり、盛りだくさんの内容に戸惑うことがあった。研修を終えた今、安堵感と充実感がある。研修期間に教育センターや仲間とのネットワークができたことやソフト制作は、私自身の自信につながった。3ヶ月も学校現場を離れて研修に参加させてもらえたことに感謝している。

研修期間に製作した『かみかみソフト』は、11月の「かみかみ週間」の全体朝会で咀嚼をテーマに利用し、学級で咀嚼指導に活用する予定である。(省略)

肢体に不自由のある生徒が進路決定する

際の情報提供として『進路情報データベース作成』に取り組んだ鏡が丘養護学校の「平岡知一郎教諭」から

研修ではたくさんのことを教授してもらい、自らの技術が飛躍的にのびたことを実感できる。校内でも、その技術を他の職員に還元できるだけでなく、多少のトラブルにも対応できるようになった。また、授業においては、生徒自身に技術を習得させたり、パソコンで作った教材は生徒の興味・関心を引くことにも役立っている。

今後、現在導入されつつある校内LANでどこからでも必要なときに情報が取り出せるようになるよう、進路指導部と連携してデータの収集・取り込みを行なっていきたい。

聴覚障害児の国語の本文理解力をたしかめるためのソフト作りをした沖縄ろう学校の「大城麻紀子教諭」から

3ヶ月の研修を終えて、不十分な出来ながらも教材ソフトを作成することができました。また、校内LANの整備に伴う指導者・管理者としての研修も数多く受けることが出来、実り多い研修でした。この研修で作成した教材ソフトを利用して、来る11月8日の九州地区聴覚障害研究大会において指定授業を行なう予定です。教材ソフトを利用することで児童の本文理解力がどこまで高まるか探求し、今後のソフト改善に役立てたいと思っています。



図1 「東町子教諭」の研修成果発表

研修に参加したみなさんから感想文等をいただきました。紙幅の都合で文章を省略したり、掲載できなかったことをお詫びいたします。これからの先生方の活躍を期待しています。

未来型教育をめざして IT教育センター 着工される

沖縄県は、情報通信関連産業の振興・集積による自立経済発展を図るため、「沖縄県マルチメディアアイランド構想」を策定し各施策を推進しており、情報通信関連分野の人材開発と集積のためには、IT研究機関の設置と初等中等教育における情報リテラシーの向上及びイングリッシュリテラシーの向上が車の両輪のごとく極めて重要であります。

なお、2000年7月に開催された九州・沖縄サミットの「IT沖縄憲章」では、ITに関する人材育成が急務である等が宣言されております。

本県ではIT立県を図るため、初等中等教育段階からより高いレベルのIT教育実習を受けられる環境を整備し、学習の機会を提供するとともに、各学校において安心してインターネットを活用し、海外の学校との交流学习やITを活用した授業を支援するシステム等の研究開発、さらに、教職員の研修施設等の確保を行うため、全国で唯一のIT教育センター(仮称)が10月29日に着工されました。

1 IT教育センター設置の目的

IT(情報通信技術)立県を目指す沖縄において、率先してIT教育センター(仮称)等の環境整備を進めるとともに、公立学校における広域教育ネットワークを活用したIT教育支援体制の在り方に関する先導的研究開発を行い、もって学校教育におけるIT教育の推進と国際化に対応できる人材の育成を図る。

2 IT教育センターにおける主な事業内容

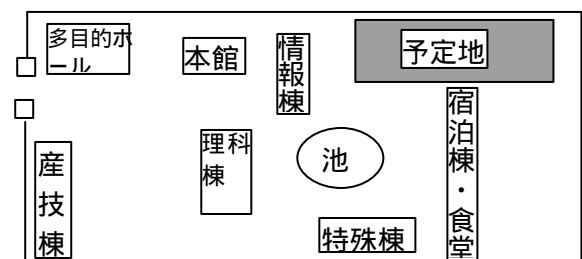
- (1) IT教育指導者を早期・大量に養成する。
- (2) 国際化に対応したコミュニケーション研修を行う。
(ITを活用した英語環境の中でのコミュニケーション研修や情報検索・発信の研修)
- (3) 総合的な教育用サイトの開設を行う。
国際交流支援 IT 総合案内 モバイル
端末活用支援 地域・学校間交流支援など
- (4) 教育用コンテンツの開発・集積・配信
沖縄の自然・歴史・文化
進路指導への活用 など

- (5) ネットワークモデル校(12校)の校内LAN等の集中管理及び運用支援
- (6) ITを活用した教育の実践的研究開発支援
- (7) ネットワークを活用した教育相談

3 完成予想図



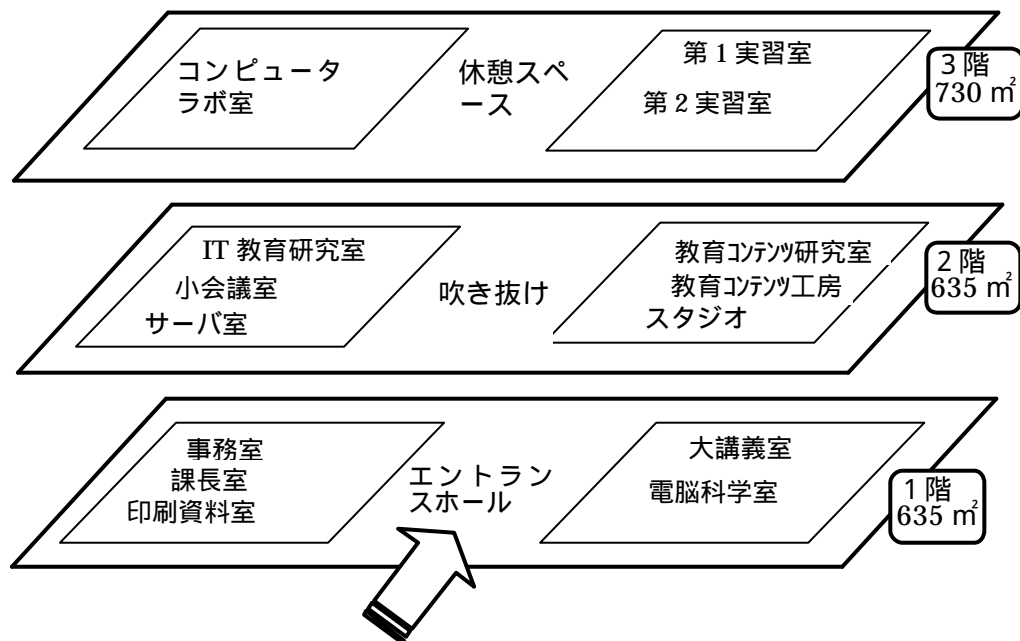
4 建設予定地(教育センター内)



5 各階研究室等配置予定図(全床面積2000㎡)

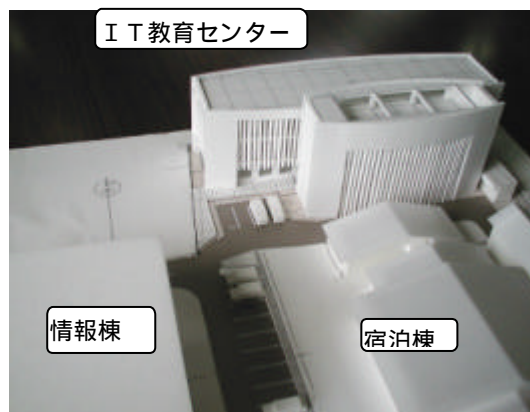
階	床面積	配置される研究室等
1階	730㎡	大講義室、電脳科学室、事務室、課長室、印刷・資料室、エントランスホール
2階	635㎡	IT教育研究室、教育コンテンツ研究室、教育コンテンツ工房、小会議室、サーバ室、スタジオ
3階	635㎡	第1実習室、第2実習室、コンピュータラボ室、休憩スペース

6 各階研究室等配置予定図



内部の空間を有効に活用するため各階フロアーはフレキシブルに部屋の組換え可能とするため、簡易な移動式壁となっており、床はフリーアクセスとなっている。
また、スロープやエレベータなど車椅子での入館も配慮した近代的な設計である

7 IT教育センター完成予想図



起工式

Multicultural Education in Australia

By Martin Pratt



Australian education recognizes the unique environment in schools for children to experience and enjoy the multicultural aspect of Australian society and learn why it is important not to discriminate against people because of race, religion, or culture. The cultures of indigenous Australians, and the cultures of the multitude of ethnic people who have migrated to Australia in the past 212 years, are all included in the curriculum of the Australian education system. It is in this education system that children and young adults learn that we are a nation of many people. The students and their families add to what we can all learn and share about differing cultures. They are what makes Australia abundantly wealthy in one of our most important resources – the people and their diversity.

『自己発見の研修』

県立普天間高等学校 友寄寿代
イジュの花が咲きほこり、新緑の眩しい、期待と緊張そして不安の入り交じった気持ちで県立教育センターの研修が始まりました。教えることから学ぶことへの戸惑いの中で、

始まったテーマ研究会ではこれからの半年間の研修は険しく、とうてい達成できないもののように思えました。「どうして研修を始めたのだろうか?」「もう一度4月からやり直したい」と幾度思ったことでしょうか。半年が過ぎ、主事の先生方の助言と支援のもと無事に研究と検証授業を終え、振り返ると私の足跡が、前方にはこれからの課題が見えます。「完全を目指して稽古せよ」と「不完全を受け入れよ」という茶の湯の先人の教えがあります。自己の姿を見つめ認識することは難しいことですが、さらに難しいのが自己受容だといわれています。完全な研究を目指して本気で努力し、自己の欠点や未熟さを見つめることができ、さらに自らの未熟さを受容することを体得することができた研修でした。

『研修を終えて』

那覇市立与儀小学校 石川博久

私は、教職経験 11 年目です。これまでの自身の教職生活を振り返ってみると、年々仕事量は増える一方で、毎日が慌ただしく過ぎてきたように感じます。また、理論や実を深めるといえば校内研修ぐらいで、日頃の教育活動で追求していきたいことを、なかなか

が研究する時間がありませんでした。今回長期研修を受けてきたわけですが、だからといって自身の教師としての資質や能力が、簡単に高まったとは思いません。しかし、教師としての意識は高まり、学んだことは多かったと思いますし、自身の課題を見つめ直す大切な期間になりました。「学ぶことの大切さ」「レポートのまとめ方」「発表の仕方」「人と人との関わることの大切さ」等、ここで学び、再認識したことをこれからの教育活動に生かしていきたいと思っています。

『研修スタート』

南風原高等学校教諭 慶田喜則

はじめに、私たち 41 名に研修の機会を与えていただき有り難うございます。私たちにとって誠に幸運なことであり、当教育センターを始め関係者の皆様に心より感謝いたします。

現在、長期研修の機会を得た喜びと責任の重みをかみしめているところです。

本教育センターの研修目的は「今日的教育課題を解決、改善していくために、…(中略)使命感を持った積極的な人材を育成し学校教育の活性化と発展に資する」とあります。私たちは、この目的を十分に理解し、達成するために諸先生方のご指導を仰ぎつつ、各自の課題に誠心誠意をもって取り組んでいく覚悟です。私たち研修員は、自分自身の資質・力量を高め、かけがえのない子ども達を愛し、子ども達と夢を語り、子ども達を育てるために、各自のテーマをもって研修にやってきました。

どうぞ所長をはじめ、諸先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



教育センター環境整備」シリーズ - その2 -

<岩石園のできるまで>

平成2年中期に研修員として教育センターを訪れたときの印象は、「周りに何も無い」事でした。

当時地学研究室の主事は大城逸朗（現石川高校校長）先生で、岩石園を作る話をしておられました。そこで、「では、早速岩石採集に出かけましょう」と申しますと、「ダメだ！」の一言でした。理由をお聞きすると、「蹴飛ばせば岩石の配置が変わるようなちゃちな岩石園ではしょうがない。人が数名で運べるような物ではなく、もっと大きな物を配置しないと意味がない。また、本島だけでなく沖縄全域の主な岩石を集めて展示したい。」とのことでした。

壮大な計画に初めは本当にできるのかなと半信半疑でした（輸送費だけでもいくらかかるのか見当も付きませんでしたし・・・）が、その後逸朗先生は野外に出るたびに、めばしい岩石を見つけては、教育委員会等に掛け合って収集ができるようにしておられました。その行動力には全くの脱帽でした。

その後、崎原盛喜所長の指揮の下、工事は進むのですが、教育実習園工事のあらましは所報44号にありますので省略します。

<岩石園の現況>

現在、岩石園は1～3まであります。当初の計画通り、県内の主な岩石が約200トン使用されています。岩石園1には、中生代～新生代古第三紀までの県内産の岩石が13種48個配置されており、岩石園2には、県外産の岩石2種8個が配置されています。また、岩石園3には新生代の岩石と鉱物が26種90個配置されています。

岩石にはそれぞれプレートがつけられ、堆積岩は緑色、変成岩は青色、火成岩はオレンジ色、鉱物と県外の岩石は黒に分類され、一目で分かるようになっています。

現在岩石園は、長期研修や短期研修において、地学の小・中・高の先生方向けの講座として利用されています。後述のように今後は生徒への利用法の開発に力を入れていきたいと思っています。

<教育センターホームページにおける岩石園>

この夏、情報処理教育課の崎原主事から「教育

センターは岩石園というすばらしい教材を持っているのだから、これをホームページで発信してあげれば、センターに来ることができない人たちでも沖縄の岩石について勉強することができるのではないかと？各学校にインターネットも整備されることだし、中・高校生が分かるような内容で情報を発信してあげよう。」と言われて取り組みが始まりました。

私としては「今年度いっぱい構想を練って来年度から立ち上げればいいな」と考えていましたが、昼間のみならず夜間の研修や講習会を抱えて大忙しのはずの崎原主事は「いや、できれば夏休み中に仕上げたい」とのことで、短期研修等も控えており頭の中はパニック状態になってしまいました。どのような形で発信してよいのか考えがまとまりませんでした。大城先生の解説を基本としながら、いろいろとアイディアも出してもらいました。

まず、ホームページのトピックスの中で岩石園の部分のを立ち上げると下の写真1のように岩石園1の写真が出ます。



写真1

立ち上がった画面（写真１）の右上にある岩石園２（理科棟技術室前へ）をクリックすると写真２のように第２岩石園の画像へ、更にその下にある岩石園３（教育センター西側）をクリックすると岩石園３（写真３）の画像を表示できるようにしました。



写真 2



写真 3

画面の中から見たい岩石の番号の場所をクリックすると、岩石のアップの写真と解説が出てくるようにしました（写真４）。



写真 4

岩石には番号を振ってあります。写真の大きさの都合上岩石全てに説明を付けることができず、25 個の岩石に限ったため、どの岩石に説明が付いているのかははっきりさせるためです。岩石によっては更にクリックすると中に入っている化石などが見えるようにしました（写真５）。



写真 5

更に岩石の名前から調べてみたい人のために、展示岩石一覧から見たい岩石を探すこともできるようにしました（参考資料）。また、簡単な学習用ワークシートやフィールドノートも PDF ファイルで用意し、各自で引き出して印刷し、利用できるようにしました。

<これからの岩石園>

これまでこの岩石園は、主として理科の教職員の研修を対象とした研修に利用してきました（生徒の来所機会がごく限られていたため）が、今年度中には全ての学校でインターネットが利用できるようになるので、中・高校生に大いに利用してもらえるようにしたいと思っています。そのためには岩石園の岩石のますますの充実と、解説の充実（授業で使いやすい形での）が求められるので、努力していかねばならぬと考えています。

平成 13 年 10 月 24 日に、糸満市立三和中学校 2 年生 94 人に、総合的な学習の時間の一環として利用してもらいました。最初に情報処理研修課において、インターネットの利用法として、ネット上で学習してもらった後、A 4 の 2 ページほどのフィールドノートを準備して実際の岩石園で観察してもらいました。その時の感想として「時間が足りない」が上がっています。今後はじっくりと取り組めるような時間設定を行い、「教育センターに来れば沖縄の岩石が全て勉強できる」を目標に、今後もワークシートやフィールドノートを含めた内容の改訂を行い、生徒の学習を支援できるよう努めたいと考えております。

尚、このホームページは平成 13 年 10 月 1 日から立ち上げています。

<文責：地学研究室 瀬名波 任>

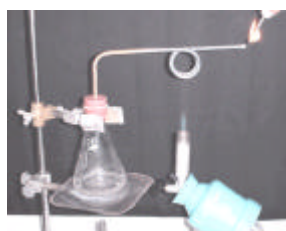
” 教育センター

好奇心を喚起する観察，実験

「化学研究室」神元正勝主事

化学は物質の性質と構造やその変化を扱い、化学の学習では、観察，実験を通して、身の回りのさまざまな物質についての理解を深めることが重要です。

化学研究室では、好奇心を喚起する観察，実験について研究し、資料の提供を行っています。これまで、「泡盛とワインの蒸留，ヨウ素の溶解，水蒸気の加熱，食塩の融解，水素100mlを作る，水素の燃焼と爆発，ナトリウムの金属光沢，お湯電池，鉛筆電池，アンモニアと塩化水素の反応，ジエチルエーテルの引火，ナトリウムと塩素の反応，テルミット反応，シュウ酸鉄の熱分解，時計反応，水の汚れを調べる，油火災，鉄粉花火」などについてまとめました。



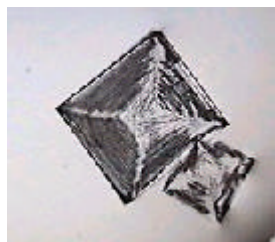
加熱水蒸気



お湯電池

デジタル顕微鏡で教材作り

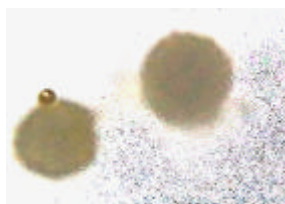
デジタル顕微鏡でコマ撮りした画像を時間短縮してスライド表示させることにより、結晶の溶解や析出，花粉内微粒子（デンプン粒など）のブラウン運動の様子を観察する教材を作りました。



食塩の析出



硫酸銅の析出



花粉内微粒子のブラウン運動

トピックス”

中間検討会の報告

「マルチメディア研究室」佐藤利枝研修員

科目「染め織り」におけるコンピュータの活用のテーマでこれまで研究してきた成果内容を掲載します。（以下報告内容）

科目「染め織り」のコンピュータ導入による授業計画について改めて、染色「紅型の型染め・筒引き」織物「平織り」の製作工程並びに指導方法を確認し、従来の製作工程とデザインCAD(U4ia)活用による製作工程を比較してみた。コンピュータ活用による製作工程は、製作に入る前に短時間で何度でもシミュレーションを行い、さらにマッピング機能により人体への着装イメージまで見ることができる。

研究を進める中で、「伝統工芸」を新しい時代、そして、新しい世代に継承するためにも従来の製作工程によるものと平行してコンピュータ導入による技術革新が必要になると強く考えさせられた。



製織機

と同時に、現代の美術・工芸・デザイン等、表現及び技術を伴う世界において、それぞれの製作工程における表現者や技術者の養成を徹底し、各工程における連携した作品製作や技術提供も不可欠になると考える。産業教育に携わる専門高校の専門科目においても一致（連携）した方向性が必要である。



中間検討会(10/19) 中央，佐藤教諭

